

## フィリピン原子力発電先端安全技術科学視察団の招へい

大統領令E0164(2022年2月28日署名)が発令され、エネルギーミックスの計画の中に原子力発電を加えるという国の方針を決定した。このような状況で、原子力発電所を同国に導入しようとするエネルギー省の事務次官をはじめとする関係者に先端の原子力安全技術にふれる機会を提供し原子力発電というものを実感していただくことを目的として科学視察団を招へいた。

### 内容

○期間・場所:2022年12月3日(土)~12月10日(土) 8日間

○被招へい者:国会議員、エネルギー省、環境省、電力公社、原子力規制機関等の高官、10名

### ○概要

視察先は、福島第一原子力発電所、女川原子力発電所、原子力燃料製造会社、茨城県科学館、原子力機器製造メーカー、耐震研究機関など。



福島第一原子力発電所の視察では、視察団員より、ALPS処理水の放出による放射線影響は自然放射線に比べてもはるかに小さく科学的に問題はないとの見解が示された。

経産省への表敬訪問では、駐日フィリピン大使、エネルギー省事務次官の両氏から、経産省に対し、本視察の支援に深い感謝の意が表明された。さらに、視察団から、日本政府が原子力人材育成などの基盤整備支援の協力を継続することへの強い期待が示された。

今回の視察団の受け入れをとおして福島第一原子力発電所の現状、先端原子力安全技術を理解していただいた。フィリピンへの原子力発電導入のための基盤整備支援に協力できたものとする。同国の原子力発電導入関係機関との信頼関係を更に深めることができた。

